

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立芝川小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)基礎学力の定着及び向上 (2)自分の考えを伝える力の育成(書くこと、話すこと)
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)反復練習を行い、基礎学力の定着を目指す【通年】 (2)ドリルパークやテストパーク等を使って個別に苦手対策を行う【適時】 (3)振り返りや感想の記入、伝え合いの工夫を行う【適時】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	本校の平均正答率は、全国およびさいたま市平均と比較して概ね同等以上の良好な水準を維持しています。特に漢字・語彙や基本的な計算などの「知識・技能」の定着率は高く、学力の基礎基盤がしっかりと構築されている点が大きな特徴となっている。その反面、複数の情報や条件を読み取り、理由やプロセスの根拠を言葉や数式で説明する「思考・判断・表現」に関する設問(記述式等)においての課題が見られる。「学校生活が楽しい」「先生や大人に相談できる」といった質問項目では、肯定的な回答が多く、学級に対しての安心感や、高い自己肯定感をもっていることが分かる。一方で、「計画的に家庭学習に取り組む」「自分の考えが伝わるよう工夫する」といった、主体的に学びを調整・深める意識の向上に課題が見られる。
結果から考えられる 児童生徒の実態	【国語】必要な情報を本文から抜き出すことはできても、複数の条件を整理しながら自分の言葉で再構成・再表現することに難しさを感じている様子が見られる。 【算数】解法や手続きの手順は理解しているものの、「なぜその式になるのか」の構造的な理解を言語化することに苦しみ意識を感じている状況が見られる。 【教科共通】基礎的な計算や単語知識等の定型的な設問では、良い結果となっているが、文脈が変わった場面において保持している知識を引き出して活用する力に課題があると考えられるため、この部分が伸び代だと考えられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	通年の反復練習やタブレット端末のドリル学習アプリを活用した個別対策により、知識・技能(基礎学力)の定着において成果が見られ、学習の土台形成が着実に進んでいる。また、振り返りや伝え合いの工夫に取り組んでいるものの、「自分の考えを根拠とともに他者へ伝える(書く・話す)」については、全国学力・学習状況調査による結果からも、記述式や思考力・表現力を問う設問に課題が見られる。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	・ドリルパーク等の個別学習において、「児童が単に「問題を解いて丸つけをする」だけでなく、間違えた原因を自力で確認・解き直す「自己調整の工夫」をしていく。 ・「振り返りや感想の記入場面で、何が分かったかの事実の記述にとどまらず、「なぜそう考えたのか」の根拠や思考プロセスを書かせる足場かけ(記述モデルやフレームワークの提示)の習慣をつける。 ・「日頃の授業において、知識を蓄積する「インプット」の時間と、根拠を持って表現する「アウトプット」の時間がバランスよくなされる授業の展開を目指していく。」	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所